

授業科目

福祉ロボット

担当教員名 勝平 純司、三村 宣治	対象学年	4	対象学科	義肢
	開講時期	前期	必修・選択	選択
	単位数	1	時間数	15

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○			

授業の概要

超高齢社会では、労働人口の減少から、自分で自分を介護しなければならぬ状況に追い込まれる。その中で、社会生活におけるゆとりと豊かさを求めて、高齢者・障害者生活支援のための福祉ロボットやレジャー用ロボット等に対する期待が高まっている。ここでは、福祉ロボットは何かについて学び、福祉ロボットの超高齢社会におけるニーズについて理解するための講義を行う。現在考えられている福祉ロボットの例についても講義を行う。ロボットアーム（ARM）については、その仕組みを学び、使用性を分析し、専門用語についての英語を講義する。

授業の目的

高齢者・障害者生活支援のために期待が高まっている福祉ロボットやレジャー用ロボット等に対する理解を深める。福祉ロボットは何かについて学び、福祉ロボットの超高齢社会におけるニーズについて理解し、現在考えられている福祉ロボットの例についても知識を広げる。ロボットアーム（ARM）については、その仕組みを学び、使用性を分析し、専門用語についての英語を習得する。

学習目標

1. 福祉ロボットは何かについて理解する。
2. 福祉ロボットの超高齢社会におけるニーズについて理解する。
3. 福祉ロボットの現状について知識を得る。
4. 代表的福祉ロボットの仕組みを習得する。
5. 福祉ロボットの使用性評価について習得する。
6. 専門用語について英語を習得する。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	ガイダンス・ロボットとは何か	講義と質疑応答,演習	勝平 純司
2	福祉ロボットの基礎	講義と質疑応答,演習	三村 宣治
3	福祉ロボットのニーズ	講義と質疑応答,演習	三村 宣治
4	福祉ロボットの現状	講義と質疑応答,演習	三村 宣治
5	代表的福祉ロボットの仕組み	講義と質疑応答,演習	三村 宣治
6	福祉ロボットの使用性評価1	講義と質疑応答,演習	三村 宣治
7	福祉ロボットの使用性評価2	講義と質疑応答,演習	三村 宣治
8	まとめ	質疑応答	勝平 純司

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書						
参考書	ロボット	新井健生	ナツメ社	2006年	1,350円	
	メカトロニクス	三浦宏文	オーム社	1997年		
	Introduction To Rehabilitation Engineering and Assistive Technology	R.A.Cooper、H.Ohnabe、D.A.Hobson	Taylor & Francis	2006年		
その他の資料						

評価方法

最終筆記試験70%、小テスト20%、レポート10%

履修上の留意点

原則、欠席1回につき-2点、遅刻1回につき-1点を最終評価から減点する。また遅刻2回で1回の欠席とする。授業の1/3を欠席した者は、原則、科目評価資格を失うものとする。

オフィスアワー・連絡先

授業に関する質問等の連絡先については授業開始時に履修者にお知らせします。